

CONTENTS 夏のつどいレポート おくさわ今と昔 身近な街 奥沢に花を咲かせる高校生
グリーンサムのお庭拝見 樹と人と 会からのお知らせ

夏のつどいレポート

せたがやの緑と文化財をたずねて



旧小坂邸のモミの大木の前で

の管理のもとに公開しています。昭和12年に別邸として建築された邸宅は、四方を緑に囲まれた中で落ち着いた雰囲気漂わせる、和洋折衷の立派な住宅です。国分寺崖線の姿をそのまま残した広大な庭は「武蔵野の森」で別天地のようです。

次の目的地静嘉堂文庫に向かう緑深い坂道は酸素がいっぱい、水辺には白鷺の姿も見られました。旧三菱財閥をおこした岩崎弥三郎氏、小弥太氏によって収集された膨大な文化財を収める静嘉堂文庫前の広場に到着。ひと休みして坂を下り、森の外側の丸子川親水公園沿いに民家園に向かいました。

岡本民家園は長崎家の旧居を移築したもので、土間やいろりから昔の暮らしが偲ばれ懐かしく、座敷に坐っているりで沸かしたお茶をご馳走になり心の安らぐ時間を過ごしました。さわやかな空気を胸いっぱい吸い、緑の恩恵を満喫した土曜の午後でした。(柳島)

久しぶりの秋晴れに恵まれた9月27日に、土とみどりを守る会の夏のつどいがありました。今迄のまちなみウォッチングと趣を変えて世田谷の文化財と緑を訪ねてみました。

二子玉川駅で待ち合わせ、バスで玉川病院前下車。ここからが楽しいウォッチングの始まりです。まず、すぐ近くのマンション敷地内に保存されている区の指定文化財の武家屋敷門を見学。少し坂を下って旧小坂邸を訪れました。ここは区が瀬田4丁目広場としてせたがやトラスト協会



「瀬田4丁目広場」の門前で

岡本民家園



静嘉堂文庫



おくさわ今と昔

砂利道と黒いゴミ箱

奥沢 2丁目
なか とくや
中 憲也

今では土の道など緑道以外では見つけるのが難しいが、昭和30年代のはじめ親の代のとき当地に引っ越してきてしばらくの間は、わが家の前の道路は砂利を敷いた土の道であった。勝手口の木戸の横にはコールトールのにおいがする黒い木のゴミ箱が鎮座していた。暑い夏の午後、どこかから氷屋がのこぎりで氷を切る音が涼しげに聞こえてくる時代であった。

ご近所でも大きな木が多く、隣家にはイチヨウの大木がありわが家にも数本のヒマラヤ杉が生け垣に沿って立っていた。庭には泰山木や梨が白い花をつけた。北隣りは空地で風呂場の窓ごしに雑木林が眺められた。自由が丘の駅に向かう角をまがった道も砂利道で、大雪の降った日には庭の竹が雪のおもみに堪えかねて道にしなだれかかり、行く手をふさいでいたことが思い出される。大きなスダジイが道路におおいかぶさるようだった曲がり角のお宅も最近モダンな家にかわり、境界が吹き抜けるような明るさになった。玄関の横にきまって応接間のある木造家屋の「文化住宅」が庭木をめぐらして続き、豪奢ではないが余裕のある堅実なたたずまいの中で、ゆったりした時間が流れているというのが私の奥沢二丁目の心象風景である。

このあたりは東急線の駅から近く便利であったが、最近では乗り入れが多くなり足場は一段とよくなった。かつて奥沢の駅は改札口は南側にしかなくて、構内の線路を渡って目黒行きホームにのぼった。無論けやき広場はなく、アーケードのように商店が並んでいた。緑道はまだ無くてコンクリートの護岸の底を川が流れており、現在の東急ストアのところには東急電鉄の保線区の事務所が建っていた。自由が丘駅の南口はなかったように思う。

この「通信」を拝見していると奥沢にはまだまだ昔の雰囲気を残している場所があり、住んでいる人達のご努力の賜物だと思う。心のやすらぎを覚えるこの地域のよさはいつまでも大事にしたい。



このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方と新しく移ってきた方々など毎回2人の住人の方が登場し、このまちにちなんだエピソードを語っていただきます。



緑の工夫に感謝

奥沢 2丁目
細野千恵子

落ち着いた佇まいのこの街が好きになって、私達が奥沢に住み始めてからもう早いもので23年程経ちます。今の二丁目の家は、9年余り前に縁あって黒井さんよりお借りしているものです。引越してきて一週間が過ぎた頃、2月の始めに思いがけず大雪が降りまぶしい雪景色になりました。丸く剪定されたドウダンツツジが白い帽子をかぶり、庭の真ん中にちょこんと可愛く立っていました。その年の春には私の好きな紫色のかれんなスマレ草が庭一面に咲きほころび、私達を歓迎してくれているかのように嬉しかったものです。通りからは見えないのですが他にイチヨウやシュロ、椎、モミ、ツツジなどが植えられていまして、春から秋にはボケ、水仙、シャガ、シラー、すずらん、山吹、ノカンゾウ、タマスダレ、山百合、アーカンサス、ミズヒキ草、ホトトギスなどの花が咲いて楽しませてくれます。

ここ奥沢の街は工夫を凝らした生け垣や庭の樹木を大切にされているお宅が多く、又四季折々の草花を楽しまれる方も多いので、鳥達ばかりでなく街を歩く私達の目も大いに楽しませてもらい、その恩恵をいっぱいを受けています。いつかは梅のいい香りに誘われて黒井さんのお庭にはうぐいすがやってきて、早朝に“ホーホケキョ”と聞こえた時は私の耳を疑ったものです。又、どこからくるのか金木犀のいい匂いで目覚めた朝は、一日心が浮き浮きしてしまいます。カラスが増えたせいか鳥の種類も前よりは少なくなりましたが、時々庭に番いで姿を現わし私達を愉快的気分させてくれます。

街も時代と共に変わっていきませんが、ご近所で大きな木が切り倒された時はとても残念で寂しい気がしました。けれども「土とみどりを守る会」の集いに参加させていただいた時のこと、私達がホッと空間をかもし出す桜や欅の大木をお持ちの方のご苦勞を知り、緑の環境を維持する事の難しさを思い知らされた気がいたしました。それぞれのお宅の緑の工夫に感謝したいと思います。

このシリーズへの御投稿をお待ちしております。
お話を聞かせ下さる方にはうかがいに参ります。

身近な街

街を親しみの持てる住みよいものにしてゆくことは、これまで私たちの社会では悲観的に思われてきました。しかし一人、一人の積み重ねで街を豊かにしてゆくことは可能であると、私たちはこれまでの経験から考えています。

「都市化」とは環境に手がくわえられ、人口の度合いを増すという物理的・空間的な都市化にとどまらず、私たち自身の生活が人工化・都市化することになると考えるべきです。「都市化」という文明社会の流れにたいして生物としての人間が心身のバランスを保つ為には、身近な生活空間に自然の豊かさを取り戻すことの必要を多くの人々が感じてきています。周囲の環境が自然を食いつぶし、無造作に何の思慮もない建築が立ち並び、新建材で埋まってしまったら、我々の創造力や感受性は著しく損なわれていくことになるでしょう。都市に人口が集まってもなんとか土や緑、あるいはこれと共生している動植物と触れ合える環境を整えようとした人間の営みの歴史を忘れてはならないと思う。考えてみれば近代文明がもたらされる以前、人々は春夏秋冬のひとめぐりと同じく自然のリズムを保ち自然の動きにあわせて暮らしていた。自然のめぐりという悠長さに反して文明が早いスピードで進み、能率至上主義の世の中になったが、そのことによって得たものは多いとしてもそこから欠落させてしまったものも数

多い。文明が快適さと結びついている以上、その流れは止めることはできないがその速さが人間の生活リズムと不調和を生じるとしたならば、やはり立ち止まって考えることが必要ではないでしょうか。

私の西欧での体験を通して思うことは道を歩く人が、そこに住む人達がその美しさや楽しさを共有しようとする共同体としての意識の高さです。

西欧では個人と集団、または社会の関係をどちらか一方を無視したり犠牲にしたりすることなく、ぎりぎりの接点をさぐり、一種の緊張と調和によって維持してゆく粘り強さがある。ちょっとうまくいかないからといって簡単にはあきらめない。そして強制されることなく市民共同体としてのルールを自分たちで作り守ってゆく。

大切なのは「街は市民全体のもの」という感情です。建築は自己のみの敷地だけに有効とする考えから一歩外へ踏み出し、街とともにその評価を高めることが求められています。(街並み選奨の趣旨はここにありません。)

都市の造形が人々の日常の生活行為と見事に対応し、また人々の社会的交流を支える場として生かされる。そうした心の通った人と物とのかかわりの手応えを、街の中につくってゆくことで、これからの建築や都市を考え直してゆきたいと思っています。

街を人間の心豊かな「住まいの場」とすることが、都市デザインの目標です。(近藤)

奥沢に花を咲かせる高校生

八幡小学校を卒業された高校生2人、岡田精一郎さん・江口大史さんによって、奥沢駅から田園調布に向かう線路沿いにハーブや草花の種が蒔かれたのが今年4月。見事に成長し夏中色とりどりの花を咲かせて、道行く人々を楽しませてくれました。名付けてフラワーロード。彼らは東京都建設局の「ふれあい道路プログラム」に参加し、奥沢駅南口エリアの歩道の清掃・植樹への水やり・自由通り沿いの花壇・フラワーロード作り等の活動を通して、地域住民と共に美しい街づくりを目指しているとのこと。来年夏には線路両側にひまわりの花を咲かせ、やがては奥沢の町の風物詩となってくれることを願っていますと楽しそうに語ってくれました。堆肥や土は、奥沢商店街の協力を得てダシガラの醗酵やお茶がらを集めたり、学校給食の残りで作った土(リサイター)等を入手する方向で対応していきたいとも・・・

地元での活動の一方で彼らは環境保全の観点からCO2(二酸化炭素)問題等地球温暖化防止のために植樹及び人材交流に関する支援を中心活動としたNPO法人ピース・インターナショナル・アソシエーション(PIA)を高校2年生にして立ち上げ、環太平洋文化教育交流財団を通じて各国の植林活動に参加しています。「ストップ・チ・地球温暖化」

左:江口大史さん 右:岡田精一郎さん



を合言葉に、約3ヶ月に一度はフィジー共和国にマンゴローブの苗を植付けに行くとのこと。マンゴローブは、約10本で成人ひとりが排出するCO2の約1年分を吸収する優れ者で、その苗10本を購入するには約1,000円が必要です。そのため「グリーンパスポート」を発行して資金調達をはかっています。このパスポートは成人・子供・自動車等6コースを設け賛同者を募っています。次世代を見据えた活動に取り組む彼らのあふれるばかりの力強さに大いに期待して、できる場所で各自が少しずつ協力できたらきっと大きな成果が得られると思います。是非アクセスを。(杉村)

ピース・インターナショナル・アソシエーション

〒107-0061 港区北青山3-6-20 青山T&Eビル8F

TEL 03-3726-3303

理事長 岡田精一郎

グリーンサムのお庭拝見 Vol.12

処暑を過ぎてからやっと夏の日差しになった8月の末、5丁目21番地の近藤さんのお宅を訪ねました。門柱の上にはポーチラカが色とりどりに、今を盛りと鉢から溢れ出て咲いています。西側奥には樹齢80年の白木蓮と金木犀が、とても涼しげな木陰を作って迎えてくれました。門柱の後の郵便受にはマダガスカルジャズミンがからんでいます。その下には数種のすみれ・都忘れ・立浪草・ぎぼし・縁どり風に日々草。丸い飛び石が玄関に向かってゆるくカーブして続き、両側に帯のようにスオウ・さるすべり・ランタナ・バラ等々と続いて、きわめつきは80年にもなるシュロ。その左側にはとても見事に紅葉するという立派なハゼの木。玄関をはさんで二葉つつじ・大きなさつき・ぼけ・シャクナゲが各2本ずつ。シャクナゲは85も花をつけたとのこと。ブルーセージ・しょうじょうばかま・おだまき・菊・千両・万両・そして可憐な日々草。南

側の道に面してこれ又80年になるうつぎ・のりうつぎ・そしてかつてはこの辺りの垣根に多く使われ、今はここに1本残すのみになったヒバと、多種多様です。

この楽しいお庭を演出なさるのは、山野草がお好きという奥様と花か紅葉をたのしめる木を植えて世話をなさるというご主人様です。5才の時(大正14年)海軍勤務のお父様と越してこられて記念に植えた白木蓮と金木犀は、大きく枝を伸ばし葉を茂らせた時期もありましたが今は本職に頼んで切りつめ、落葉の候にはご夫婦で遠くまで葉を集めに歩かれるとか。土地を分ける時も木を残せるよう工夫をされたそうです。

そんな噂話に耳をそばだてる様に、2本の大木は少しの風にさわさわと心地良い葉ずれの音を聞かせてくれました。今迄聞いたどんなB・G・Mより美しく感じられ、耳の奥に何日も残っていました。(立花)

樹と人と 推奨樹木の持ち主の方に、木にまつわる話・木への思いを語っていただくコーナーです。(毛利)

ソメイヨシノ + 吉田敦子さん(奥沢5丁目36番地)

「少し昔のお話になりますが、お孫さんを亡くされた方が供養のために苗木をいくつかの小学校に配られたという、由来のある木です。娘が八幡小学校へ入学の時、この桜の苗木をいただき、30年以上の歳月でこのように立派になりました。そして毎年綺麗な花を咲かせて、ご近所の方々からも「切らないで」と言われております。自由が丘から登り坂をこの木の所まで歩いてくれば、木陰があるのでひと休みできると皆様から愛されているこの木は、今日も涼しげな風を運んでくれます。裏庭にはこの木の子供(苗木)が3本5・6cmほどに伸びていて、成長をたのしみにしています。」



ヒバ + 中山隆壽さん(奥沢3丁目44番地)

「この木は私の子供の頃から庭の中央にありました。車の排気ガスによる害は特にありませんが、以前にカラスが巣を作ったのでその為にも時々枝を切っています。」庭の中央にシンボルとなって堂々と存在するヒバの木は、中山さんの成長なさる姿をじっと見守っていたのでしょ。南向きのお庭の木々が暖かい日差しを浴びて、心安まる雰囲気をかもし出していました。



会からのお知らせ

秋のつどいは、11月15日(土)に奥沢東地区会館で1時30分から開催します。第1部は「小松久とその仲間たち」のバンド演奏によるおくさわコンサート。第2部は建築家・街づくりプランナーの猪狩達夫さんに「庭づくりや街並みづくりの話」をしていただきます。楽しいつどいに是非お出かけください。

第1回推奨樹木に樹名板を取り付ける作業が終わりました。お散歩の折にさがしてみてください。又道から見える所にいい樹木がありましたら会の方へ御推奨なさってください。

土とみどりを守る会では、会員になって下さる方を引き続き募集しています。会の活動を支える会費は年間1口1,000円です。お電話を頂ければ早速お伺いするか振込み用紙をお送り致します。どうぞご協力お願い申し上げます。

編集後記

若い情熱と行動力を世界に向かって発揮している高校生の口から「奥沢が大好き」という嬉しい言葉を聞きました。彼らの輝く未来に希望を託して、私たちも大好きな奥沢の土と緑を守り育てなくては...と大いに力づけられ元気を貰ったインタビューでした。

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢 2-19-9 長瀬雅義 5729-0126
世田谷区奥沢 2-41-2 柳島尚子 3718-8558